備前市事務事業評価シート

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成4年～	根拠法令・例規等	国民文化祭開催要領
総合計画 大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）	生涯学習課文化係
総合計画 中項目	基本施策	03 歴史と文化の輝くまちづくり	職・氏名	係長　石井　啓
総合計画 小項目	施策	01 文化芸術の振興	電話	０８６９－６４－１８４１
事務事業名		01 文化活動推進事業	このシート作成に要した時間	3.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	市内外の子どもから大人まで、芸術や文化に興味のある人。また地域でこれから文化芸術活動を行う人。
目的（何のために）	文化は心を豊かな人間性を育みます。地域の中で芸術文化に親しむ機会を提供し、地域の文化力を高めていく。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	吹奏楽フェスティバルは、自主活動の促進、参加団体の活性化をはかる。国民文化祭では多くの市民に「体験を伴う」参加を呼びかけ、地域文化の再発見を促進した。その結果、「第２回岡山県子ども備前焼作品展」を開催し次世代の文化活動のきっかけづくりにつなげたい。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
備前吹奏楽フェスティバル事業	音楽活動を通じて、小学生・中学生・高校生・社会人の文化交流を促進し、平素のグループ活動の集大成の発表の場を設ける。	○
国民文化祭準備事業	平成22年度岡山県開催の国民文化祭は、全国最大規模の文化芸術の祭典であり、県内市町村が地域の特性に応じた文化事業に取り組んだ。主催事業は「美術展（陶芸）」と「陶芸の祭典」であり、実施方針である「市民との協働」、「伝統文化の継承と次世代の文化活動支援」、「活力あるまちづくり」、「おもてなしの心とふれあい交流」のテーマにそった事業を備前市実行委員会が実施した。	◎

事業費等		単位	平成20年度実績		平成21年度実績		平成22年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円		310		872		3,280
	必要人員 人件費		0.28人	2,036	0.56人	4,370	1.29人	11,018
	事業費計			2,346		5,242		14,298
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			2,346		5,242		14,298
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標名	単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
国民文化祭関連行事の参加者数	説明	国民文化祭関連行事の参加者数		
結果指標量	人	50	450	14,818
対前年比	%	－	900.0%	3292.9%
活動コスト	円	1,763,000	4,571,000	13,617,000
単位当たりコスト		35,260	10,158	919

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
国民文化祭備前市行事参加者数	目標値（A）	50	300	10,000	800
	実績値（B）	50	450	14,818	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	150.00%	148.18%	

成果指標設定の考え方・式や説明

22年度で国民文化祭事業は完了したため、次世代の文化活動を推進するため国民文化祭からの引き継がれた事業「第2回岡山県子ども備前焼作品展」の応募者数を新たな指標とした。

Check

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

市民ニーズ

妥当性評価 <A～E>：**A**

効率性の評価

コスト手段

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**B**

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☑ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**A**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
					○		

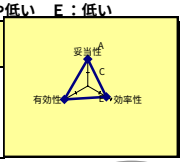
説明：平成22年度で国民文化祭事業はすべて終了した。今後は国民文化祭から継承された事業「第2回岡山県子ども備前焼作品展」をいかに充実、発展させていくかである。吹奏楽フェスティバルは昨年度に引き続き、人的コストの削減に努める。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

「陶芸の地」備前市での国民文化祭は、「晴れの国　陶芸浪漫」のテーマのもと、継続事業である「美術展（陶芸）」と「陶芸の祭典」の2事業を開催した。全国公募の美術展では、若手作家らの積極的参加などで見ごたえのある展示となった。「陶芸の祭典」では、「夕暮れの開会式」、「第1回岡山県子ども備前焼作品展」、「土ひねり体験」などを市民ボランティア「あっ晴れ！陶芸浪漫応援隊」の方々ともに開催し、多くの参加者が焼き物のよさの再認識と次代のあるべき姿を考えました。

評価区分 <A～E>：**A**



Action

平成24年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
					○		

取組目標：国民文化祭から継承された「岡山県子ども備前焼作品展」を「次世代の文化活動を推進する事業」として定着させるとともに、関連する文化施設等とワークショップなどで連携を図るプランを検討し、地域文化と人が輝くまちづくりを目指す。